市長独言

No. 70 …銃兵衛の化粧まわし

東京・両国の国技館で大相撲1月場所を観戦しました。昨年春に十両に昇進した現和庄司浦出身の島津海（本名・中園空）を応援するためです。国技館としては3代目となる現在の建物は1985（昭和60）年、旧国鉄操車場跡地に建てられました。相撲だけでなくボクシングなど多目的に使われ、土俵は開催場所ごとに新しい土を使って作り替えるそうです。

「しまづうみ、鹿児島県出身、放駒部屋」

十両力士の土俵入りで島津海はのっしのっしと堂々たる足の運びで回りました。化粧まわしは火縄銃兵衛を取り込んだデザイン。後援会の折口幸喜会長らとともにマス席中段で「島津海」と記した応援タオルを掲げ、マスクの内側から「シマヅウミーッ」と声を張り上げました。

島津海は新十両として迎えた昨年3月の春場所で勝ち越した後、新型コロナ絡みの休場などをはさんで、11月の九州場所では3勝7敗からの5連勝で勝ち越し。初場所も初日から3連勝と好調を維持し、観戦した7日目は4勝2敗で迎えました。

取り組み前の呼び出しでは、「鹿児島県種子島出身」と土俵入りの時より少し詳しく紹介されます。対戦相手は、勝ちっぱなしで全勝の元大関朝乃山という大一番。立ち会いよく、差し手争いから得意の右四つとなり、もろ差しを狙いましたが成功せず、すくい投げを打たれたところで左足が流れて突っ伏しとなり、惜しくも敗れました。

土俵の上で、悔しさはあるはずですが、あまり表面に出さないようにしているように見えました。一喜一憂せず、次に向けて切り替える、そんな態度が備わっていると感じました。市政をあずかる身としても、果敢かつ丁寧に進むことを旨としたいと思います。

土俵入りする島津海（左端）